

# 女城主 井伊直虎の誕生

相次ぐ当主の死により、井伊家の命運は尽きたかと思われたが、この窮地を救うため、次郎法師が立ち上がった。女城主・直虎の誕生だ。



龍潭寺絵図 りょうたんじえず  
江戸時代に描かれた龍潭寺の境内図。直虎が身を寄せた松岳院は、現在の龍潭寺の本堂の南側にあった。  
彦根城博物館所蔵  
画像提供：彦根城博物館/DNPartcom

## 南溪瑞閣頂相

井伊家の菩提寺である龍潭寺の二世、南溪和尚の肖像画。向かって右を向いている肖像は生前に描かれたことを現している。「自分の教えを後世に伝えて守れ」という南溪和尚直筆の漢詩がしたためられた貴重な史料。  
(龍潭寺所蔵)



南溪和尚は直虎の大叔父じゃ



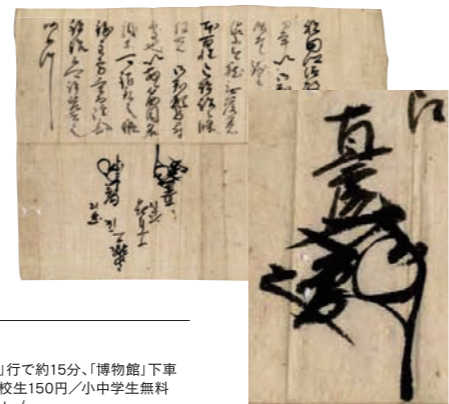
## E

### 蜂前神社

直虎の花押が記された唯一の古文書「井伊直虎関口氏経連書状」を所蔵。応神天皇の時代、八田毛止恵が勅命によって遠江国に下向して開墾し、八ヶ前の地に本社勧請したのが始まりだといわれる。



浜松市北区細江町中川6915  
交/天竜浜名湖鉄道「金指駅」より車で約5分



蜂前神社蔵・博物館寄託

### はちさき 蜂前神社所蔵 直虎書状

浜松市博物館には、井伊直虎の花押が記された唯一の古文書「井伊直虎関口氏経連書状」(蜂前神社文書・市指定文化財)が保管されている。当時、花押は身分のある男性が用いるものであった。直虎が男性として振舞っていたことがわかる史料。

はままつしはくぶつかん  
浜松市博物館  
浜松市中区観塚4-22-1 ☎053-456-2208  
交/JR浜松駅遠鉄バス②乗り場より「銀塚・佐鳴台」行で約15分、「博物館」下車  
料/常設展(特別展期間は別料金)大人300円/高校生150円/小中学生無料  
http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/hamahaku/



### 井伊谷周辺地図

浜名湖の北側・奥浜名湖エリアにある井伊谷。里山から注ぎ込む清らかな水に恵まれ、古来から「井の国(水の国)」とも呼ばれている。

## EPISODE III

### 今川氏の要求をかわし 徳政令の実行を延ばす

永禄8年(1565)、次郎法師は幼い虎松を守るため、南溪和尚と相談し、「井伊直虎」と名乗り、領主となる決心を固めた。女城主の誕生である。直虎が最初に直面したのは、今川氏から出された徳政令だった。すぐに徳政令を受け入れれば、井伊家が危ういと察した直虎は、これを2年間引き延ばすが、今川氏は永禄11年(1568)、徳政令を実行。直虎は城主の立場を

失ってしまふ。これにより、今川氏とひそかに通じていた小野但馬守が井伊領を支配することとなる。母の暮らす龍潭寺 松岳院に身を寄せた直虎は、戦況を見つめることしかできなかった。また、幼い虎松は父と同じ運命をたどり、三河(愛知県)の鳳来寺に預けられ、虎松の母は松下清景と再婚しました。

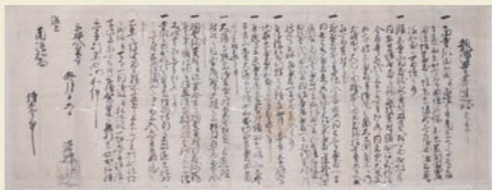
※徳政令 朝廷や幕府が債権者に対し、債権放棄を命じた法令で、鎌倉時代から室町時代、主に農民から農地を守るために用いられたが、この時の徳政令は井伊氏の力を弱めるためのものであった。

頑張るのじゃ!



### Check 次郎法師龍潭寺寄進状(直虎黒印状)

じろうほうしりょうたんじきしんじょう(なおりらくいんじょう)



永禄8年(1565)、次郎法師は幼い虎松を守るため、「井伊直虎」と名乗ったとされている。龍潭寺には、永禄8年九月十五日の日付とともに、次郎法師の署名と黒印が押された寄進状が残されており、井伊直虎と名乗るのはこの直後と考えられる。  
(龍潭寺所蔵)

## 直虎をめぐる井伊家 家系図(略図)

